

# キャベツ

## 1 栽培のポイント

- ☆排水対策（周囲明きよ、弾丸暗きよ、高うね等）による湿害予防
- ☆栽培時期、地域に合った品種の選定
- ☆高温期における健全苗の育成
- ☆定植後の早期活着と初期生育の促進
- ☆病害虫防除の徹底

## 2 作 型(露地夏まき)

品種	6		7		8		9		10		11		12	
	上	中下	上	中下	上	中下	上	中下	上	中下	上	中下	上	中下
おきな 新藍														

## 3 育 苗

### (1) 育苗ポット

36穴連結ポット または 128穴のセルトレイ

※ 初期生育の確保には、36穴連結ポット苗が優れる。

### (2) 培土 …… 特性を把握して使用

○ ホーネン野菜培土1号 15kg : 25ℓ / 袋 (N : 0.22g/ℓ = 22kg/10a 成分含有)

○ ホーネン野菜培土3号 15kg : 25ℓ / 袋 (N : 0.12g/ℓ = 12kg/10a 成分含有)

○ ホーネンプラグメイト 50ℓ / 袋 (N : 0.12g/ℓ = 12kg/10a 成分含有)

※ 野菜培土1号は、肥料切れが少ないが、胚軸が伸びやすい。

野菜培土3号・プラグメイトは、肥切れが早い。

トレイの種類	1枚当たり 必要培土量	10a当たり 必要トレイ数	10a当たり 必要培土量	備考
セルトレイ 128 穴	3.0 ℓ	30 枚	約90ℓ(3.6 袋)	3,840 株
連結ポット 36 穴	2.7 ℓ	106 枚 (2 枚セット 53 枚)	約286ℓ(11.5 袋)	3,816 株

※ 10a 当たり 3,500 株植え付けする場合、予備苗含む。

※ 36 穴連結ポットは水稻育苗箱に 2 枚乗せて 72 穴 / 枚分にして使用する。

### (3) 育苗棚の準備

ア 育苗期間が梅雨期から高温期となるので、雨よけハウス（トンネル）内で管理する。  
高温・乾燥防止のため、ハウス天井の外に、白寒冷紗を設置する。

※ 遮光ネットの例

ダイオ カルクール SW-50（ホワイト） 遮光率 50～55%

イハウスのサイド、入りに口に防虫ネットを設置し、コナガ等の害虫の被害を防ぐ。

ウセルトレイは地面にべた置にせず、パイプやたる木などを利用し、空間を作る。



### (4) は種作業

ア セルトレイに培土を均一に詰め、は種前日までに十分かん水をする。

イ 1穴1粒播きとする。覆土は厚さ5mm程度とし、ふるいを使って丁寧に行い、覆土後は軽くおさえる。（覆土が少ないと発芽後苗が転びやすくなるので注意）

ウ 乾燥防止のため、新聞紙をかける。

エ こまめに発芽を確認し、発芽が見られたら新聞紙を取り除く。

通常は、は種して、2～3日目に発芽始め、7日目に貝割れ展開となる。

### (5) 発芽後の管理 ～かん水は苗質を決める重要なポイント～

ア できるだけ細かい霧で、弱い水圧で、かん水する。

イ かん水は早朝1回を基本とする。天候と生育状況を見ながら加減し徒長を防ぐ。

ウ 高温乾燥のため、苗のしおれ、枯れに注意し、1日3回（朝、昼、午後）の確認が必要となる。天候に応じ、遮光やかん水を行う。

エ 日中高温となり、苗のしおれ具合が著しい場合は、昼ごろに葉水を行う。

夕方にかん水すると徒長の原因となるので、夕方のかん水は控える。

生育ステージ	かん水の目安
発芽後～子葉展開	最小限にとどめる
子葉展開～本葉2枚目出葉	晴天：トレイの下から水滴が落ちるくらい 曇天：晴天日の半分くらい
本葉2枚目出葉～定植	日中はしおれ、夕方回復するくらいの節水管理

オ 育苗時の追肥・・・ は種後14～20日以降、液肥の300倍を施用する。

※ 育苗後半は、下葉が黄化しやすい。葉が黄化後の追肥では回復しないので、黄化する前に液肥を施用する。

## 4 ほ場の準備

### (1) 基肥 (10アールあたり)

肥料名	施用量	N成分 (kg/10a)
DL焼成苦土 または 苦土石灰	120kg	—
以下の①～③のいずれか		
① BM畑作1号 (N-12、P-11、K-12)	140kg	16.8
② BM畑作3号 (N-10、P-16、K-12)	160kg	16.0
③ MMB燐加安14号 (N-14、P-10、K-13)	120kg	16.8

### (2) 栽植密度

栽植様式	栽植密度
うね幅 150 cm、株間 35～40 cm、2条千鳥植え	3,330～3,800 株/10a
うね幅 80 cm、株間 35 cm、1条植え	3,570 株/10a

※ 定植当日に、アップカットロータリー等により碎土率の高いうね立てを行う。

※ 排水不良地では高うね (高さ 25～30 cm) にして湿害を防ぐ。

## 5 定植

### (1) 定植苗 …… 育苗日数 25～30日が目安 (セルトレイ128穴)

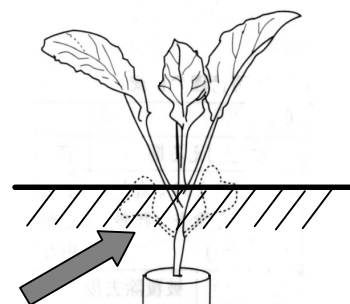
- セルトレイ128穴では、は種後25日間程度、葉数2.5枚程度の苗を定植する。
- 連結ポット36穴では、3.5～4枚程度の苗を定植する。

### (2) 定植前

- 定植3日前～前日に苗箱処理用殺虫剤を灌注処理し、初期の虫害を防ぐ。
- 根こぶ病の発生が懸念される場合は、定植前に殺菌剤を処理する。
- ほ場が乾燥している場合は、定植前に通路かん水し、ほ場の乾燥し過ぎを直す。

### (3) 定植

- 高温時は、地温の高い日中を避けて、午後涼しくなった頃に定植する。
- 根鉢の表面が、ほ場の土で埋まる深さ (やや深植) で植え付ける。根鉢がうね表面に露出すると活着不良になりやすい。浅植のところは手直しする。
- 定植後は株元に十分かん水する。植付後のかん水は必須
- ネキリムシ防除のため、株元に薬剤を施用する。



根鉢と子葉(貝割れ)は埋める。  
生長点と本葉は地表に出す

### (4) 定植後のかん水

- 活着が安定するまで、定植後3～7日間は必ず朝にかん水を実施し活着を図る。活着が悪く、初期生育が不良になると極端に収量が低下するので注意する。
- ※ 乾燥時の定植では、スプリンクラーやチューブかん水を設置し、かん水する。
- ※ かん水設備が無い場合、定植後に明渠や通路に通水する。

## 6 追肥

- 初期生育が不良な場合は、初期から液肥の追肥を行い、生育量を確保する。  
液肥300倍液 300~500L/10a 株元施用

### (1) 1回目 追肥

- 苗が活着し、生育を始める定植後14日頃にNK化成を、10a 当り20kg（窒素成分3.6kg）施肥する。
- ※ 1条植えの場合、追肥後に管理機により土寄せを行い、除草と倒伏防止を図る。

### (2) 2回目 追肥

- 定植後30日頃にNK化成を、10a 当り20kg（窒素成分3.6kg）施肥する。
- ※ 草勢が良く、葉色が出ていれば、2回目の追肥は不要とする。

## 7 生育の目安

- 定植15日後の生育量 葉数：6~7枚 葉長：15cm
- 定植30日後の生育量 葉数：9~10枚 葉長：25~30cm
- ※ 定植後40日位までに外葉を十分に伸長させることが重要である。

## 8 病害虫防除

- ほ場をよく観察し、早期発見・早期防除にこころがける。

病害虫名	特徴	対策
根こぶ病	葉が萎れ、株を引き抜くと根に大きなコブができる。	アブラナ科作物の連作を避ける
軟腐病	葉や結球が腐る。高温条件で出やすい。 チッ素過多、長雨で多発する。	排水対策の徹底 高温期での発病前の予防散布
黒腐病	葉のふちからV字型に黄変する。 ひどい場合は下葉から次々と枯れる。 大雨、台風の後には発生しやすい。	排水対策の徹底 アブラナ科作物の連作を避ける 大雨、台風の後には薬剤散布
ネキリムシ類	定植直後の苗の茎をかみ切って倒す。	定植時に粒剤散布 被害株の周辺を掘って捕殺する
アオムシ	葉脈を残し葉を食害する。	早期に薬剤防除
コナガ	1cm前後の小さなアオムシ状の虫。 葉裏に寄生し、葉の表面を残して食害する。	薬剤抵抗性がつきやすいので、異なる作用の薬剤でローテーション防除
ヨトウムシ	群生するため、いっきに葉を食べつくす。 花蕾の中に侵入する。	卵塊やふ化直後の幼虫を見つけしだい、葉を取り除き処分する

## 9 収穫

- 結球の表面が堅くしてから収穫を行う。
- 裂球しやすい品種や気温が高い時期は、収穫が遅れないように早めに収穫する。